

主催事業紹介

講演会「ケニアの子どもたち～キベラ スラムのくらし～」 & アフリカ音楽会

実施日：5月10日（水）午後4時30分～6時30分

参加者：46人



ケニアの首都ナイロビにあるキベラというスラムで、子どもたちの駆け込み寺となっているマゴソスクールを設立・運営している早川千晶さんと、マゴソスクール校長ダン先生、教頭オギラ先生を招いて講演会・音楽会を行いました。

（写真左から、早川さん、オギラさん、ダンさん）

スラムでは100万人とも200万人ともいわれる人が、それぞれ小さなあばら家にぎゅうぎゅうになって暮らしていますが、そこに住むことすらできない子どもたちもたくさんいるそうです。オギラさんもそのような子どもの1人で、8歳のときに母親が亡くなり、その後は生後6カ月の弟を背負いながら働きますが、1日働いてもパン一つしか買えず、弟にパンを食べさせ、自分は破裂した水道管から水を飲んで暮らしていたそうです。夜は寒いので生ごみを拾ってきて地面に敷き、その上に5人兄弟姉妹で寝ていたといいます。

そのような暮らしのあと、マゴソスクールのリリアンという女性に出会って、マゴソスクールに行くようになり、昼は給食が食べられ、進学することもできたそうです。

マゴソスクールではかつてのオギラさんのような境遇の子どもたちが約600人います。そしてその子どもたちを支えているのは、早川さんたちのような「ハランベ」の気持ちを持っているケニアの人たちです。「ハランベ」とは「力を合わせて助け合って生きる」という意味です。最後はみんなで歌ってアフリカの太鼓をたたいて終わりました。とても考えさせられ、感動した2時間でした。

